

価値観が一瞬で反転する瞬間を経験した貴重な講義でした。

春日 政美 M1 お空の天使パパ&ママの会 (WAIS) 青山キャンパス

あまりの衝撃でどう言葉にすれば良いか分からないほどです。今までの自分が考えていたことがガラガラと音をたて崩れ、新しい価値観が聳え立ったそんな感じで息が止まりそうなことが何度もありました。

以下に息が止まりそうになったベスト3をあげさせていただきます。

○自分を助けられなければ人を助けることはできない

娘を死産し、あまりにも辛く悲しい日々を過ごしていたとき、「誰でもいいから助けてほしい」と願っていました。それなのに、周りは助けてくれるどころか距離を置いたり・腫れ物に触るような接し方だったり・何もなかったかのような接し方だったり・的外れな励ましだったりと私が満足できる援助は受けられませんでした。(今はそれが当たり前だと思っています)

赤ちゃんを亡くした会で同じような経験をした人と出会い、はじめは居場所をみつけれなかったと感じ通って話を聞いてもらっていましたが、決定打がないというか…数ヶ月すると「悲しんでいるだけでは何も変わらない」と考えるようになっていきました。そこから自分で自分をなんとかしようと思い始め、いろんな工夫と失敗を繰り返していきました。

先生のお言葉をお借りすると自分を助けてきたのだと思います。いずれは会を立ち上げようと思っていますが、力不足ではないかと考えてしまっていました。しかし、今は自分をここまで助けることができたのだから出来るかも知れないと自信を持ってました。

○自分のした苦勞は人の役に立つ

人生の苦勞はオーダーメイドで他の人にすべて当てはまらないし、経験はその人のものだから自分と人の経験は違うと考えていました。しかし、先生のお話を聞いているときに「私の経験のこの部分はAさんに、ここの部分はBさんに、あちらの部分はCさんに役に立つかも?」と思いました。すべての苦勞や困難は重ならないけれども、ほんの一部でも重なる部分があれば役にたてられ

るのだと、未来の活動に向けて希望が持てました。

○苦労には人の気持ちが集まる

苦労や困難は人の輪を作る。

保育園で働いていたときに困った子を一人が助け始めると、一人また一人と、助けたい子供が集まってくる現象を何度も見ました。寝ているキヨシさんの代わりに主婦が販売をしたように、大人の世界でも同じことが起こります。

私も今までたくさん助けられてきました。「大変だ!」「困ってる…」というのをキャッチする能力が人間には備わっていて、助けたい気持ちはどんな人にもあるのでしょうか。

驚きの連続の時間でした。この驚きをレポートにするということはとても困難な作業でした。他にもいろいろと書きたいのですが、後はノートにまとめて未来の自分へのプレゼントにしたいと思います。

恐怖が希望にドキドキがワクワクにと気持ちが反転し、気が動転しそうになりながら、しっかりとお話を聞かなければと踏ん張りました。

このような経験は人生の中でも1度あるかないかだと思います。

苦労も困難も失敗もかかって来い!という気持ちに今はなっています。

死産後に自分の状況と向き合ったときそういえば何に対してだか分からないけど、いつも「かかって来い!」とファイティングポーズを心の中でとっていた事を思い出しました。そういうことなんだ、と自分ひとりで納得しています。

向谷地先生、ほんとうにありがとうございました。